

項目		説明
試料・情報 の利用 目的 及び 利用方法	研究課題名	肺腺癌術後 pN0 症例において術前因子である原発巣 GGO 有無や SUVmax が予後に与える影響
	研究目的	手術可能な早期肺癌症例は全国的にも増加傾向にあります。術前に肺癌の悪性度をより正確に評価することは術式や予後を考慮する上で大事なことです。医療機器の発展により可能となった高分解能 CT や PET-CT で肺癌の画像診断および悪性度評価もより精密になっております。これらで評価できる項目が、実際に患者さんの予後にどのように影響しているかを検討し、解析することでよりよい肺癌診断、治療の一助とすることが目的です。
	研究対象者	2011/1-2017/12 に当センターの呼吸器外科で完全切除を行った原発性肺腺癌のうち、病理学的なリンパ節転移のみられなかった患者さん。
	研究期間	西暦 2021 年 8 月 23 日 ~ 西暦 2022 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物 (尿・便) <input type="checkbox"/> その他 (記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理 についての 責任者	当センター 研究責任者	重福 俊佑
試料・ 情報 を利用 する者 の範 囲	当センターでの実 施診療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共 同研究機関および 各施設での研究責 任者	無し